

## 令和3年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

技術支援課  
(普及指導室)

|         |  |
|---------|--|
| 生育の概況   | 麦類の生育が早まっているため、低温時の凍霜害の発生が懸念される。現在の作柄は「並」が見込まれる。 |
| 作業の進捗状況 | 除草剤散布、赤かび病防除準備                                   |

## 1 気象経過 (前橋橋地方气象台データの平年比、※3月は20日まで、参考資料参照)

| 項目   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | ※3月   |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均気温 | +1.5℃ | +0.3℃ | +0.5℃ | +2.3℃ | +3.0℃ |
| 降水量  | 8%    | 0%    | 105%  | 95%   | 138%  |
| 日照時間 | 113%  | 107%  | 92%   | 116%  | 99%   |

## 2 生育概況

## (1) 概要

播種時期は好天が続いたため平年よりも播種作業は順調だったが、一部で12月まで行われた。播種が遅れたほ場および砕土が粗いほ場では、少雨による過度の乾燥のため出芽が不揃いとなった。

1月中旬までは低温と乾燥が続いたため生育の停滞が見られたが、1月下旬以降は適度な降雨と気温が高く経過したため生育は回復し、前進している。茎立期は、大麦では平年より7日、小麦では5日程度早まっており、長期予報では今後も高温が予想されているため出穂期も平年より前進すると見込まれる。

3月3半旬の低温により、播種が遅れたほ場や生育不良ほ場で凍害による葉先枯れが広範囲で発生したが、幼穂凍死は確認されていない。生育が前進しているため、今後も低温時の凍霜害に注意が必要である。また、雑草の生育が早く、一部で問題となる草種が増加傾向にある。

## (2) 病虫害・障害等の発生状況

降雨や高温のため雑草の発生が見られる。

凍害による葉先枯れが中毛・東毛地域で発生している。

## (3) 作況ほ等の調査結果

作況ほ(さとのそら)のデータの平均は、播種期は11月19日(過去平均比-2日)、3月20日現在の草丈が24.5cm(同105%)、茎数が1243本/m<sup>2</sup>(同101%)、幼穂長が3.4mm(同109%)となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果(小麦「さとのそら」、11月17日播種)では、3月20日現在、草丈が29cm(過去10カ年平均比126%)、茎数が1088本/m<sup>2</sup>(同105%)であり、幼穂形成期は3月1日(同-5日)、節間伸長始期は3月18日(同-6日)となっている。今後気温が平年並で推移した場合、3月20日現在で予想される出穂期は4月22日(同-2日)となっているが、平年より1℃高く推移した場合は4月19日、2℃高い場合は4月17日と予想される。

## (4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、館林が「並～やや良」、その他の地域が「並」であることから、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。

表1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

| 地 区   | 播種期         | 2月20日     |                         | 3月20日     |                         |           |
|-------|-------------|-----------|-------------------------|-----------|-------------------------|-----------|
|       |             | 草 丈<br>cm | 茎 数<br>本/m <sup>2</sup> | 草 丈<br>cm | 茎 数<br>本/m <sup>2</sup> | 幼穂長<br>mm |
| 平 均   | 11月19日(-2日) | 10.7(97)  | 1090(125)               | 24.5(105) | 1243(101)               | 3.4(109)  |
| 前 橋 市 | 11月16日(-4日) | 9.5(106)  | 1573(202)               | 22.6(107) | 1637(114)               | 4.0(146)  |
| 伊勢崎市  | 11月22日(+4日) | 10.2(94)  | 856(97)                 | 23.8(102) | 1263(96)                | 2.4(89)   |
| 高 崎 市 | 11月14日(-6日) | 12.1(86)  | 1461(119)               | 27.4(76)  | 1163(105)               | 5.0(74)   |
| 太 田 市 | 11月25日(-3日) | 10.9(108) | 471(95)                 | 24.1(111) | 909(92)                 | 2.0(112)  |
| 邑 楽 町 | 11月7日(-15日) | 12.7(146) | 1764(525)               | 30.4(139) | 1795(164)               | 3.1(168)  |

\*各地区の( )内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

\*日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市は過去9年、伊勢崎市は同1年、高崎市は同1年、太田市は同9年。

邑楽町は特異値のため県平均から除外した。

表2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

| 播種期<br>月/日    | 幼穂形<br>成始期<br>月/日 | 節間伸<br>長始期<br>月/日 | 2月10日        |                        | 3月1日          |                        | 3月20日         |                        |
|---------------|-------------------|-------------------|--------------|------------------------|---------------|------------------------|---------------|------------------------|
|               |                   |                   | 草丈<br>cm     | 茎数<br>本/m <sup>2</sup> | 草丈<br>cm      | 茎数<br>本/m <sup>2</sup> | 草丈<br>cm      | 茎数<br>本/m <sup>2</sup> |
| 11/17<br>(+3) | 3/1<br>(-5)       | 3/18<br>(-6)      | 9.0<br>(113) | 532<br>(106)           | 14.2<br>(126) | 1005<br>(112)          | 29.0<br>(126) | 1088<br>(105)          |

\* ( ) 内は平年値は過去10年の平均に対する日数および比率(%)。

表3 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

| 地 区  | 県平均 | 中 部 | 伊勢崎 | 西 部 | 東 部 | 館 林   |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 作柄概況 | 並   | 並   | 並   | 並   | 並   | 並～やや良 |

### 3 技術対策

#### (1) 排水対策

排水対策を未実施のほ場では早急に排水溝等を設置する。実施ほ場においては排水溝の確認や手直し等を随時実施し、ほ場の過湿を回避する。

#### (2) 追肥

特にパン用小麦品種では、葉色が淡い場合は開花期頃に窒素成分で2～4kgの追肥を実施し、タンパク質含量の向上を図る。

#### (3) 病害虫対策

赤かび病の感染を防ぐため、赤かび病防除は必ず実施する。本年は生育が早まっていることに留意し、生育状況に応じた防除計画を検討しておく。

各麦種の防除適期は、小麦が出穂7～10日後、二条大麦が穂揃10日後、六条大麦が穂揃期である。防除後の気温が高く、降雨が多い場合は7～10日後に追加防除を行う。

うどんこ病やアブラムシは、発生状況に応じて防除を行う。「つるぴかり」「きぬの波」はうどんこ病に弱く、過繁茂のほ場で発生しやすい点に留意する。

#### (4) 雑草対策

収穫物への種子混入が問題となるカラスノエンドウ等は確実に処理する。

カラスムギやネズミムギ等の難防除雑草は、周辺ほ場への拡散や翌年の多発につながるため、発生量が少ないうちに抜き取りを行う。

ほ場をよく観察し、殺草限界前までに適切に処理するとともに、麦の生育が早まっていることに留意し、除草剤の使用晩限を超えないよう注意する。

#### (5) 凍霜害対策

本年は生育が前進しており、凍霜害の発生が懸念されるため、3月下旬～出穂期までの危険期の天候に留意する。小麦は幼穂長3mmのときに-2℃以下、20mmのときに

0℃以下の低温で幼穂凍死が発生する。幼穂凍死は低温日から4～5日後の幼穂の変色や新葉が抽出したときの黄化症状などにより確認できる。また、幼穂が凍死すると遅れ穂が発生するため、収穫時期に留意するとともに、調製は丁寧に行い、未熟粒の混入を防止する。

不稔粒は、出穂8～10日前の-1℃以下の低温遭遇や、出穂前後の降霜などにより発生する。不稔粒は赤かび病の発生を助長するため、適正に防除を行う。

【参考資料】

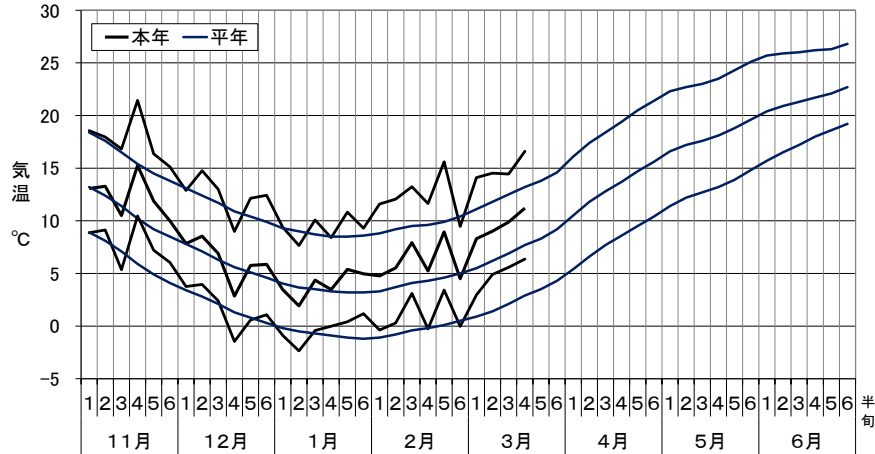


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

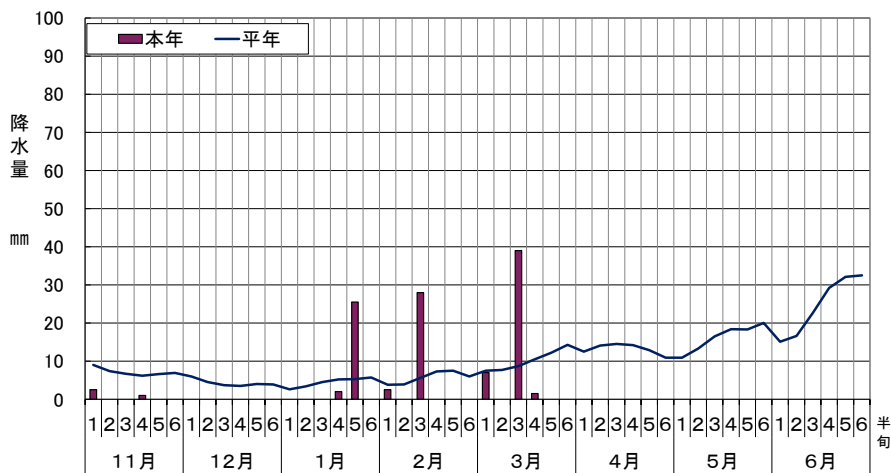


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

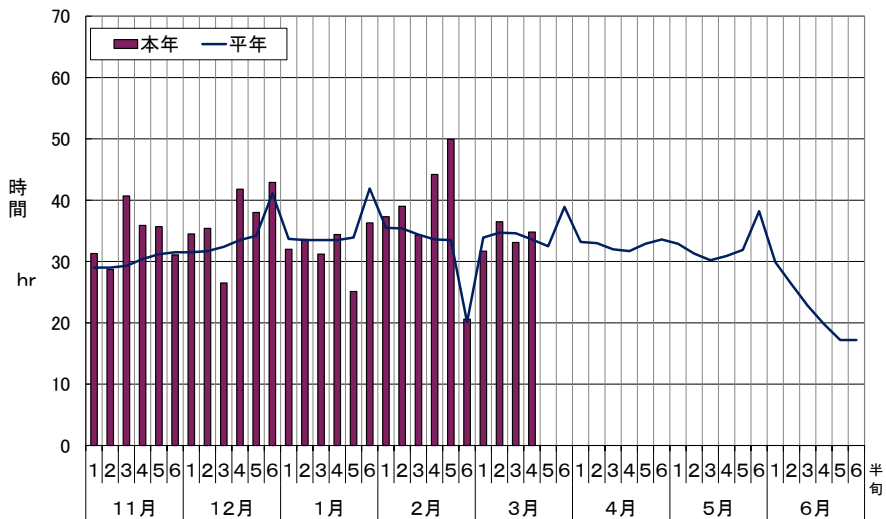


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）